

黒にする。

夜の海のように、真っ暗で波の音だけが聞こえて。  
ふと上を見ると昼の明るい世界で見えなかった星たちが姿を現す。  
私たちが単純に目だけで見ている世界は、正しい世界なのだろうか。

現在は「hamamaru series」と「黒い人 series」の2つのシリーズを  
平面・立体・インスタレーション、縛らずに表現をしています。

## hanamaru series

日本では「○」maru という記号は正解や良い状態を表すことである。

海外ではテストにはチェックマークが正解。

丸い満月には狼や悪魔など悪いイメージがある。

日本人特有の○という形が「正しい」という感覚。

私の心の奥底は丸の形で出来上がっている。

幼い頃の記憶では、テストで○をもらえるのが嬉しかった。

はなまるをもらえたらもっと嬉しかった。大変よくできましたを

もらうために生きているようだった。

そういった「良いこと」「常識」を学び、私は「まる」で形成された人間になった。

たまに私の体や思考は「まる」から離れたくなる時がある。

しかし、歴史が今まで作り上げた世間体や常識がそれを許さない。

世界は「まる」でできている。でもそれは本当の丸なのか？

誰が描き出したかわからないはなまるは、私たちの心にひっそりと咲き続けている。

それは手書きではなく、どんどん常識や世間という力で美しい正円に近くなっていく。

正しさに凝り固まった美しいバランスの取れたはなまるになっていく。

それが本当に正しいのかもわからずに。

○という形を利用して、正しさをもう一度考える。

## 黒い人 series

私は現代病であるアトピー性皮膚炎を患っており、

外見に対し強いコンプレックスを抱いていた。

どんなに人は見た目じゃない！と言われても

人目が気になるし、悪気のない傷つく言葉も言われたこともある、

外に出ることもどんどん臆病になる。

外見差別なんてされたくない、その思いが爆発した時に、

みんな夜のように真っ黒になればいいのにと考えついた。

女性なのか、男性なのか、皮膚が何色なのか、どんな人なのか。

夜になり明かりがなければ目で何も理解できなくなるのだ。

黒の世界では姿なんて関係ない。

じっと見つめてくる人。3つにずれた丸い目。

人は見るものだけに左右されて、真実はどこにあるのか。

写真も動画ももしかすると全て加工品かもしれない。

本物とのずれを私たちは視認できるだろうか？